

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

菰 釣 山 - 静 寂 の 雪 山 -



菰釣山(今倉山から)

ようやくトソ気分も抜けた1月中旬、仲間数人と、丹沢山塊西端の山・菰釣山(1379m)に出かけた。

国道413号を走り、道の駅「どうし」の駐車場に車を置く。駐車場がしっかり除雪されているのが嬉しい。入念に冬山支度を整えて9時出発。道志の森キャンプ場への林道をたどる。車に踏まれた林道が恐ろしい程にテロンテロンに凍り、途中で早々にアイゼンを着けた。林道歩きのアイゼンもなかなか結構な趣向である。

10時半、西沢登山道入口。ここから雑木林の中の急登が始まる。積雪30~40cm。ラッセルを心配したが、ここ数日の登山者の踏み跡が残っており、有難くトレースをたどらせていただく。それにしても急斜面のあちこちに大きなバケツが掘られ、先客がラッセルにもがき苦しんだ痕跡が見てとれ、申し訳ない思いである。



深雪のラッセル

枝に結ばれた赤テープを頼りにトレースをたどる。沢を3回程越え、次の滝状の急沢を右に左に渡り返しながらツメていく。結構キツイ傾斜である。先客

のトレースがなかったら胸までの雪漕ぎを強いられたかと思ひ、先客にただ感謝である。それでも最後は恐ろしい程の急傾斜のトラバースになり、倒木を乗り越え、立木を這い潜る羽目になり、果たしてルートが正しいか否か心配になるが、赤テープの標識を信じてひたすら前進あるのみである。11時半、ようやく稜線道に飛び出し、菰釣避難小屋を見つけてホッとした。後は白々のパウダースノウを踏みながらブナ林の尾根道の緩やかな登りで、菰釣山頂到着が12時10分。ブナ林の中、

音もなく雪の降りしきる山頂は、静寂そのものだった。



菰釣山山頂

頂上に5分程滞在した後は、元の避難小屋に戻り、ガンガンとバーナーを焚いて賑やかに昼食休憩をとった。こういう時の熱々の豚汁は何物にも替えがたいご馳走である。



菰釣避難小屋

朝と同じルートを下り、駐車場帰着が15時半。そしていつもの村営温泉「道志の湯」に立ち寄り湯。運転担当には悪いが、つい誘惑に負けて、ちゃっかり湯上がりのビールをいただいた。